

報道関係者各位

[Royal Enfield](#)

2023年12月3日

## ロイヤルエンフィールドが カスタムバイク「Challenger」を ヨコハマホットロッドカスタムショーで世界初公開

- 「Challenger」 -ヨコハマ ホットロッド カスタム ショー2023 で世界初公開したカスタムバイク
- 日本を拠点とするカスタムバイクビルダー「Cherry's Company」とのコラボレーションから誕生
- 既に北米や欧州で発表した「SUPER METEOR 650」ベースのカスタムバイク/Roland Sans Designおよび DEUS EX MACHINA の2台とともに、日本を拠点とするカスタムバイクビルダー/AN-BU CUSTOM MOTORS とのコラボレーションバイク「Royal Enfield-改/KAI」も展示する



写真：Challenger

横浜、2023年12月3日：中型モーターサイクルセグメント(250~750cc)のグローバルリーダーであるロイヤルエンフィールドは、12月3日(日)にパシフィコ横浜で開催される「ヨコハマ ホット ロッド カスタム ショー2023」において、カスタムバイク「Challenger(チャレンジャー)」を、世界初公開します。このカスタムバイクを製作したのは、東京を拠点とするカスタムファクトリー「Cherry's Company(チェリーズ カンパニー)」の代表である黒須嘉一郎(くろす・かいちろう)氏です。

# ROYAL ENFIELD

「Challenger」は、2023年春に日本での販売をスタートした、排気量648cc空冷4ストローク並列2気筒エンジンを採用したロイヤルエンフィールドのオーセンティッククルーザー「SUPER METEOR 650(スーパーメテオ・ロクゴーマル)」をベースに製作。「Cherry's Company」の黒須氏によって、クラシカルなサイドカースタイルにカスタムされています。

バイクは、一部スタンダードフレームを使用しながら、メインフレームは黒須氏によってワンオフで製作。60本スポークのフロント21インチホイールと、同じく60本スポークのリア18インチホイールを採用することで、リアからフロントに掛けて美しいボディラインが伸び上がるクルーザーシルエットを造り上げました。その美しいボディラインを強調しているのが、SUPER METEOR 650の特徴でもある、リアサスペンションを支えるルーフフレーム。黒須氏は、スタンダードのルーフフレームのラインを活かしながら、オリジナルでルーフフレームを製作。美しいフレームラインを造り上げました。またフロントのサスペンションシステムは、黒須氏がゼロから設計し、スチール鋼管を使って製作したアールズフォーク。サイドカーを取り外した場合も、バイク単体として走行できるよう、アクスルシャフト部分をエキセントリック式にして対応しています。

燃料タンクはスチール製。ヘッドライトナセルやシートカウルはアルミ製。すべて金属の一枚板を叩き出し、それを組み合わせて造り上げたハンドメイドです。ヘッドライトの樹脂製レンズも、黒須氏自身が設計し製作したワンオフ物です。

サイドカーはフルオリジナル。フレームはもちろんサイドカーの車体も、設計および製作も黒須氏自身が行いました。フレームはスチール鋼管を使用。60本スポークの19インチホイールに、リーフスプリングとダンパー付きスプリングサスペンションを組み合わせてセットしています。サイドカーのディメンション変更が行えるように、各部に様々な工夫が凝らされています。またサイドカーの車体は、黒須氏自身がスタイロフォームを削り込んで型を製作。その上にガラス繊維を貼り込んで仕上げたFRP製です。

ロイヤルエンフィールドのアジア パシフィック ビジネス責任者、アヌジ ドウアはロイヤルエンフィールドとカスタムシーンについて次のように述べています。

「タイ、インドネシア、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアなどの市場から、ロイヤルエンフィールドが世界で最もカスタムに優しいモーターサイクルを作っているという、多くのフィードバックを得ています。私たちは、世界中のモーターサイクリストが世界中の想像力や工芸品で夢を実現するための味方であり続けたいと考えています。また、アジア太平洋地域では、当社の情熱的なディーラーネットワーク、熱狂的な顧客、ブランドのファンによって100を超えるエキサイティングなカスタムプロジェクトが行われ、それをファンと共有できていくことを嬉しく思います。世界中で何百ものカスタムプロジェクトを構築してきた私たちは、世界でもっとも権威あるカスタムフェスティバルの一つであるヨコハマ ホットロッド カスタム ショーに、2023年も参加できることを大変嬉しく思います。これからも私たちロイヤルエンフィールドは、日本をはじめ世界中の優れたカスタムバイクビルダーからインスピレーションを得て、純粋なオートバイの喜びを提供し続けます。」

また、カスタムバイクとヨコハマ ホットロッド カスタム ショーについて、カスタム&モータースポーツ責任者のエイドリアン・セラーズは今回のチェリーズ カンパニーとのカスタムプロジェクトについて次のように述べています。

「チェリーズ カンパニーとのプロジェクトは、ロイヤルエンフィールドのカスタムプログラムにとって大きなマイルストーンとなりました。カスタムバイク界のレジェンドである黒須氏によるカスタムバイク『Challenger』を今年のヨコハマ ホットロッド カスタム ショーで披露できることは大変光栄です。わずか7年前にスタートしたロイヤルエンフィールドのカスタムプログラムは、Wheels & Waves、Bike Shed や Kustomfest など世界中のイベントを通じて世界最高のカスタムビルダーとのコラボレーションを発表してきました。今回、私たちはプロジェクト初のサイドカーである、このユニークなカスタムバイクを通じて日本のカスタムシーンの創造性と卓越した職人技を称えます。そしてこの作品は私たちが短期間でどれだけ遠くまで到達したか、また将来どれだけ遠くまで行けるのかを表明するものとなります。」

昨年12月、ロイヤルエンフィールドは日本最大級のカスタムバイクおよびカスタムカーのイベント「ヨコハマ ホットロッド カスタムショー2022」に初参加。650 ツイン・プラットフォームをベースにした2台のカスタムバイクと1台のレース用ファクトリーマシンを、日本のバイクファンに披露しました。さらに3月の東京モーターサイクルショーで、日本人ビルダーと初めてコラボレーションした車両を発表。そして今年は、ここ横浜で日本人ビルダーとのコラボレーションバイクを発表することができました。私たちは引き続き、ロイヤルエンフィールドのカスタムバイクの世界を、より多くの日本のバイクファンに発信していきます。

また『Challenger』は、12月11日(月)から25日(月)まで、東京浅草にあるカフェ／ORTIGA(オルティガ)に、DEUS EX MACHINA が製作した「Rolling Queen」は12月5日(火)から25日(月)までデウス エクス マキナ浅草で、期間限定で展示いたします。

## < 『Challenger』 展示詳細 >

・ 展示期間：12月11日(月)～25日(月)

・ 展示場所：ORTIGA (オルティガ)

東京都台東区雷門2-16-13(雷門より徒歩5分)

平日・日／祝：9:00-17:00、土曜：9:00-18:00 定休日／火曜

instagram | [@ortiga\\_asakusa](https://www.instagram.com/ortiga_asakusa)

## <『Rolling Queen』 展示詳細>

- ・ 展示期間：12月5日（火）～25日（月）
- ・ 展示場所：デウス エクス マキナ浅草

東京都墨田区向島 1-2-8 東京ミズマチ ウェストゾーン

10:00-19:00 無休

<https://jp.deuscustoms.com/>

※12月6日(火)には夕方からイベントを開催。詳しくは SNS でご確認ください。

## <ロイヤルエンフィールド社について>

ロイヤルエンフィールドは、1901年の創業以来、美しいオートバイを作り続けている最も古いモーターサイクルブランドです。イギリスにルーツを持ちますが、1955年にインド・マドラスに製造工場が設立され、これを足がかりにロイヤルエンフィールドはインドの中型二輪車セグメントの成長を先導してきました。ロイヤルエンフィールドでは、「Pure Motorcycling（ピュア・モーターサイクリング）」と呼ばれるアプローチの下に、魅力的で、シンプルで、親しみやすく、乗るのが楽しい、探検と自己表現のための乗り物を作ってきました。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、スタイリッシュな「HUNTER 350（ハンター・サンゴーマル）」、時代を超越した「CLASSIC 350（クラシック・サンゴーマル）」、クルーザーのMETEOR 350（メテオ・サンゴーマル）」、648cc空冷4ストローク並列2気筒エンジンモーターサイクルの新型「SUPER METEOR 650（スーパー・メテオ・ロクゴーマル）」、「INT650（アイエヌティ・ロクゴーマル）」、「CONTINENTAL GT650（コンチネンタル・ジーティー・ロクゴーマル）」があります。アドベンチャー・モーターサイクルでは、「HIMALAYAN（ヒマラヤ）」アドベンチャー・ツアラー、「SCRAM 411（スクラム・ヨンイチイチ）」アドベンチャー・クロスオーバー、そしてアイコン的な「BULLET 350（ブリット・サンゴーマル）」を用意しています。ライダーと情熱的なコミュニティは、地元、地域、国際レベルでの豊富なイベントによって育まれています。特に、毎年ゴアで開催される何千人ものロイヤルエンフィールドファンが集まる「ライダーマニア」や、最も過酷な地形と最高峰の峠を越える巡礼の旅、「ヒマラヤンオデッセイ」などは有名です。

Eicher Motors Limited（アイシャーモーターズ・リミテッド）の一部門であるロイヤルエンフィールド社は、インドの主要都市に2050以上の店舗、世界60カ国以上に1150以上の店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、イギリスのブランディングソープとインドのチェンナイの2箇所にテクニカルセンターと呼ぶ先進的な開発部門を有し、チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに2つの最新鋭の生産施設を有しています。世界では、ロイヤルエンフィールド社は、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの5ヶ所に最新のCKD（コンプリート・ノックダウン：製造国から車両すべての部品を輸入し、現地で組み立てて完成車とする方法）組立施設を有しています。過去5年間の年平均成長率は35%以上で、ロイヤルエンフィールドは世界の中型モーターサイクル市場をリードしています。

ロイヤルエンフィールドのブランドやモーターサイクルに関する詳細は、下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.royalenfield-tokyoshowroom.jp/>

# ROYAL ENFIELD

画像素材はこちらからダウンロードできます。

[https://drive.google.com/drive/folders/1SXxniZc7c\\_4\\_c9BgcSBHn29WxDhgoVD4](https://drive.google.com/drive/folders/1SXxniZc7c_4_c9BgcSBHn29WxDhgoVD4)

**【製品に関するお問い合わせ先】**

ピーシーアイ株式会社（ロイヤルエンフィールド正規輸入販売元）

E-mail: [press@pci-ltd.jp](mailto:press@pci-ltd.jp)

**【報道関係者のお問い合わせ先】**

ポーリクロム株式会社

Tel. 03-6822-4666

E-mail : [re\\_jp\\_pr@polychrome.co.jp](mailto:re_jp_pr@polychrome.co.jp)